

経営比較分析表（令和2年度決算）

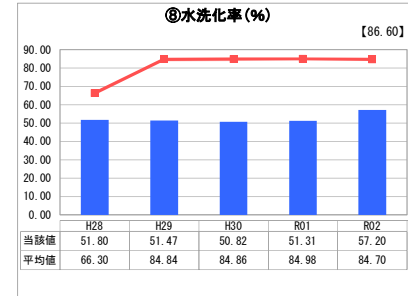
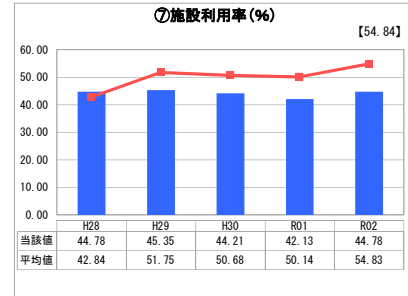
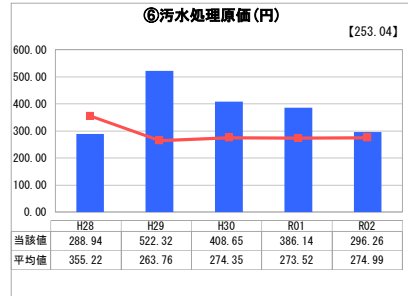
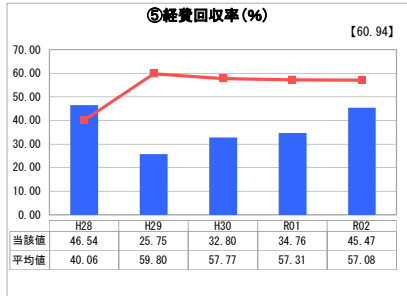
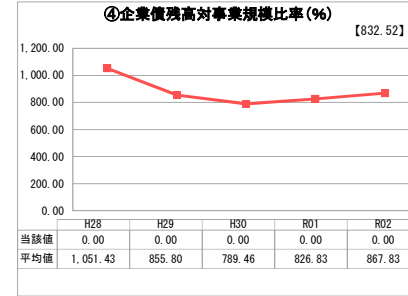
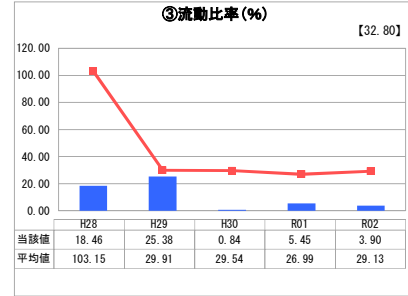
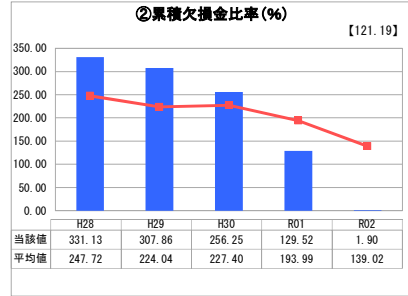
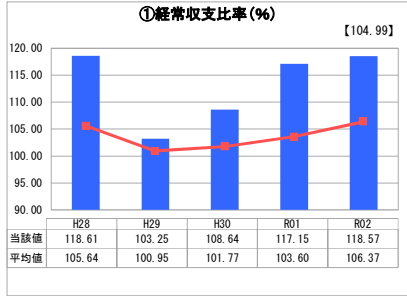
兵庫県 加古川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	36.18	0.99	96.07	2,530

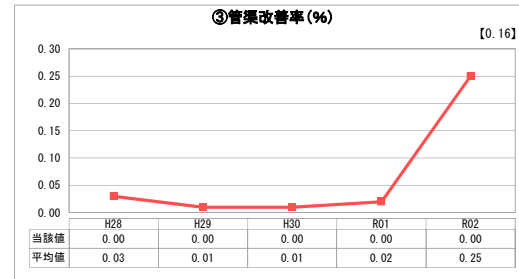
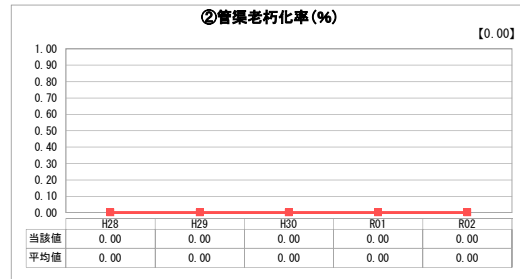
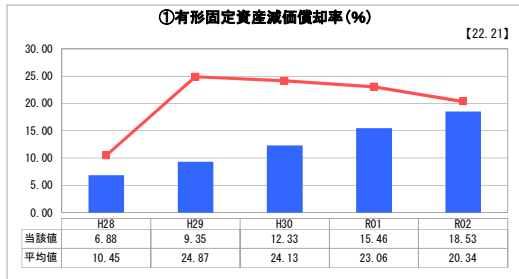
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
263,134	138.48	1,900.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,596	0.36	7,211.11

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ②累積欠損金比率
全国平均・類似団体平均と比べ低く、累積欠損金は毎年順調に減少しており、近く解消する見込みである。
- ③流動比率
使用料収入は微増したものの、未払金の増加に伴い、流動資産流出額が増加したことで流動比率の値が悪化した。
- ④企業債残高対事業規模比率
"0"となっているのは、企業債の元利償還金を繰上基準に基づく公費負担で随っており、企業債残高全額を一般会計負担額として取り扱っているためである。
- ⑤経費回収率、⑥汚水処理原価
使用料収入が微増し、汚水処理費が減少したため、汚水処理原価は低下(改善)し、経費回収率は上昇(改善)した。
※平成29年度は処理施設の更新工事に伴い、固定資産の除却費が多く発生し、汚水処理費が臨時的に増加。
- ⑦施設利用率
令和2年度はコロナ禍の影響を受け異管もりが増加したことにより数値は上昇(好転)しているが、未だ全国平均・類似団体平均と比べて低い(悪い)状態にある。最適な施設規模や効率的な施設利用を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

当該事業は、平成10年度(1998年度)から建設事業を開始し、20年以上が経過した。現段階では管渠の老朽化については大きな問題はないと考えられるが、今後とも適切な維持管理に努めていく必要がある。

全体総括

終末処理施設を設けない整備手法により、建設費用・維持管理費用の節減を図っているものの、使用料収入の大幅な増加が見込めないことから、事業運営は苦しい状況にある。維持管理費の削減等により、収支の改善を図っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。